2020 年度（令和 2 年） 連携総合ゼミ実施報告

JICA 草の根技術協力事業(支援型)『ハイズオン市の市民に対する地域連携訪問サービスのモデルづくり』

1. 日程:2020 年 8 月 31 日（月）～9 月 4 日（金）5 日間集中講義(オンライン開催)

2. 実施経過

2 月 26 日（火）　「新 4 年生オリエンテーション」連携総合ゼミの説明
3 月中　各学科にて連携教育研究センター運営委員より広報
4 月履修開始～ 7 月 29 日（水）　履修登録期間

連携総合ゼミナール(5 日間)

- 8 月 31 日(月)2 限　「オープニングオリエンテーション」
  開会の言葉 新潟連携教育センター長　松井 由美子
  学長講演　西澤 正豊先生 『多職種連携と地域包括ケア』
  3 限　集中ゼミ開始

- 9 月 1 日(火)　ゼミ 2 日目

- 9 月 2 日(水)　ゼミ 3 日目
  3 限　「コーヒーハウス（国際交流委員会共催)」
  海外参加者との学生交流会(担当：救急救命　竹井 豊先生
  中山医学大学(台湾)2 名、ハイズオン医療技術大学 12 名
  新潟医療福祉大学　スプリングボード部学生
  10 時～　卒業生 2 名(理学療法士)（同窓会から）事例ラウンド

- 9 月 3 日(木)　ゼミ 4 日目
  11 時　～「JICA 草の根技術協力事業キックオフミーティング」
  ハイズオン医療技術大学　総長　Dr.Tran Quang Canh 挨拶
  新潟医療福祉大学　学長　西澤 正豊先生　挨拶
  ベトナム側　メンバー紹介 Dr.Dinh Thi Xuyen より紹介
  日本側メンバー紹介 プロジェクトマネージャー　松井 由美子
  閉会のことば　副プロジェクトマネージャー　久保 雅義
  17 時まで 発表用ビデオスライドの提出(日本語、英語版)

- 9 月 4 日(金)　ゼミ 5 日目
  10 時　「連携総合ゼミ発表会(オンライン)」　9 月 6 日まで視聴可
  13 時 10 分「連携総合ゼミ修了式(オンライン)」
  学長挨拶　西澤 正豊先生
  閉会の言葉 新潟連携教育研究センター長　松井 由美子

担当教職員：大松（部会長・司会)、桑原(英訳)、佐藤未・間宮（学生割振)、村田(協力教員募集)、山口（他大学窓口)、伊藤（アンケート)、村山（教務課)、大野（国際交流・JICA)

3. 本年度の新たな試み

1)オンライン開催

新型コロナ感染症の拡大を受けて Teams を使用したオンライン開催とした。発表はビデオスライドの視聴とし、9 月 4 日～6 日の 3 日間を視聴期間とし、スプレッドシートを利用して意見・感想を記入してもらった。

2)事例の絞り込み

新型コロナ感染症の影響により本年度は海外の常連大学（フィリピンのサントトマス大学、アンヘレス大学と台湾の陽明大学）が参加を見合わせた。

また本学の学生も対面を希望する学生が多く履修を取り消し参加数が半減した。そのため、担当教員に希望を聞き当初の 18 事例から 12 事例に絞って開催した。

3)JICA 草の根技術協力事業（支援型）のプログラムとして開催

JICA 草の根事業のプロジェクトは 2020 年 3 月にキックオフミーティングを開催し、4 月より事業開始の予定であったがス新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けハイズオン医療技術大学の教員招致ができず開始の遅れを余儀なくされていた。本プロジェクトは『ハイズオン市の市民に対する地域連携訪問サービスのモデルづくり』であり、本学の連携総合ゼミをハイズオン医療技術大学の学生に移行し、ベトナムの地域連携訪問実習に生かしてもらうことを目標としている。オンライン開催に変更したがハイズオン医療技術大学の学生 12 名（医学 4 名、理学 4 名、看護 4 名）が参加して多職種で対象者の支援策を考える方法を学ぶ機会となった。

4. 継続イベント

1)コーヒーハウスの開催（海外参加者との交流会）

2)同窓会から卒業生の参加（日時　9 月 2 日水曜日 10:00～）

理学療法学科 2 名参加

・理学療法士、訪問看護ステーション勤務（訪問リハビリ）

・理学療法士、病院勤務

〇オンラインで 2 名一緒に各ゼミに Teams で参加してもらった。各グループメンバーからとても参考になり有益であったとの感想が聞かれた。

5. 今後の課題など

1)オンライン開催の経験をどう生かしていくか。

・グループワークの方法・技術力のアップ（事前 FD の必要性、海外参加者と日本人学生のコミュニケーション方法・アイスブレイクの活用など）

・オンライン発表の方法（質問の回答や意見交換の方法）

2)時期・開催方法について（集中ゼミの開催または週単位の開催）

・現在の開催時期は学生の夏季休暇期間であり、また学科によって実習期間であるところも多い。また就職活動などで参加できない学生も多い。

・1 年から 4 年までに配置された連携科目は 1 年次前期科目『チームアプローチ入門」（リハ学部必修、リハ以外選択）は選択でも 200～300 名と参加者が多い。2 年次は連携基礎ゼミで必修であり全員が履修する。3 年次の前期科目『保健医療福祉連携学』（選択）は 60～80 名、後期集中科目『地域連携学』は約 30 名で少数である。集中でなければ履修者が多いかどうかは不明であるが、現連携総合ゼミの開催時に実習が重なる学科が多いことから、4 年次の各週の授業にもってくる方法も検討の余地があると考える。

6. 参加総数:123 名(学生 71 名、教職員 52 名)

大学	学科	学生数	教職数	
新潟医療福祉大学	義肢装具	0	0	本学
	作業療法	8	2	
	理学療法	3	5	
	言語聴覚	4	3	
	社会福祉	4	6	
	健康栄養	2	3	
	看護	11	5	
	視機能科	2	3	
	健スポ	1	2	
	医療情報	1	4	
	救急救命	0	2	
	放射線	未	3	
	臨床技術	0	1	
	大学院生	8		
	事務局		2	
計		44	41	85
新潟薬科大学	薬学	5	1	国内
日本歯科大学短期大学	歯科衛生	6	2	
新潟リハビリテーション大学	作業	2	1	
計		13	4	17
中山医学大学	学生(看護)	2		
	教員(看護)		1	
ハイズオン医療技術大学	学生(医学)	4		
	学生(理学)	4		
	学生(看護)	4		
	教員(理学)		3	
	教員(看護)		2	
	教員(栄養)		1	
計		14	7	21
参加総数		71	52	123

*昨年度(2019 年)実績

参加総数		124	81	205